

# 銅・アルミ

## 市況見通し

### 6月

#### 銅

銅板条の4月生産量は、1982年以来、41年ぶりの低水準となった。しかし、18年以降、中国向けの輸出の割合が低下し、代わってマレーシア向けの輸出が増えた。その後、需要やエアコン需要の低迷に伴う生産減および発生減により、流通（一次問屋）における5月の在庫は品薄となった。需要面は今月も自動車生産販売の回復から一定の需要はあるが、スマホおよびエアコン需要の回復が遅れているため、需給は緩むと見ている。

4月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比17・6%減の5万4350トで16カ月連続のマイナス。特に黄

4月の銅電線出荷量は同4%減の4万9800トで、うち国内が同3・8%減、輸出が同21・5%減だった。銅輸出は電気銅が同11%増の4万4370ト、銅スクラップが同8%増の3万206ト。銅スクラップ輸出は、2017年まで中国向けの輸出の割合が大きく、輸出量全体の9割以上を占めている

#### 6月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	8000~9000 <sup>F</sup> <sub>ル</sub>	横ばい
電気銅建値	113~130万円	横ばい
為替（1 <sup>F</sup> <sub>ル</sub> ）	135~140円 （1カ月間TTM）	変わらず

きくなってきた。銅輸入は電気銅が同44・5%減の237ト、銅スクラップが同22・1%減の9910トだった。

#### 銅スクラップ景況予想

5月の電気銅建値は121万円でスタート。一時119万円を付けるなど下落傾向だった。スマートフォンの需要やエアコン需要の低迷に伴う生産減および発生減により、流通（一次問屋）における5月の在庫は品薄となった。需要面は今月も自動車生産販売の回復から一定の需要はあるが、スマホおよびエアコン需要の回復が遅れているため、需給は緩むと見ている。

「米債務上限問題解決後の金融政策」は、「6月利上げ停止後に様子見、必要であれば7月利上げの可能性」もあり得る。ただ、米経済指標や失業率を見る限り、利上げ停止の材料は見当たらない。

「中国景気回復の動向」は、中国の4月の消費者物価指数（CPI）と卸売物価指数（PPI）が市場予想を下回った。これを見れば一方的な景気回復はないと見ている。

二次合金・合金地金生産は同5・1%減の6万406ト（5カ月連続のマイナス）。出荷は同2・5%減の6万100ト（2カ月連続のマイナスだった。輸出はアルミ新地金が同108%増の260ト、アルミ二次合金が同63%減の606ト、アルミスクラップが同56%増の3万9693ト、アルミ缶が同23・3%減の5465トだった。

輸入はアルミ新地金が同45・5%減の6万4476ト、アルミ二次合金が0・7%増の7万9412ト、アルミスクラップが同10・5%減の945ト、アルミ合金スクラップが同11・6%増の7188トだった。

#### アルミスクラップ景況予想

4月に続き欧米の金融引き締め策に伴い、LME価格は2250〜2350<sup>F</sup><sub>ル</sub>と下落傾向だった。流通（一次問屋）在庫では、自動車生産は回復基調にあるが今月もまだ入荷が少ない見通し。需要面では、日本の自動車生産販売は堅調。ただ、爆発的な需要はなく低位安定が続くと予想している。ただし、来月以降は需給回復の兆しがあるのではと期待している。

#### アルミ

4月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同12・5%減の14万3799トで13カ月連続のマイナスだった。生産量は板類が同16・6%減の8万8575ト、押出類が同5・0%減の5万5244トだった。

#### 為替予想

今月は「米債務上限問題解決後の金融政策」および「中国景気回復の動向」の項目に

#### 6月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2100~2400 <sup>F</sup> <sub>ル</sub> （現物後場買い）	横ばい
スクラップ	0円~マイナス10円 （前月最終価格より）	横ばい

## 橋本アルミ取締役

### 橋本 健一郎氏レポート



4月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比17・6%減の5万4350トで16カ月連続のマイナス。特に黄

4月のアルミニウム